

キャベツ・レタス生産・供給への高温影響評価

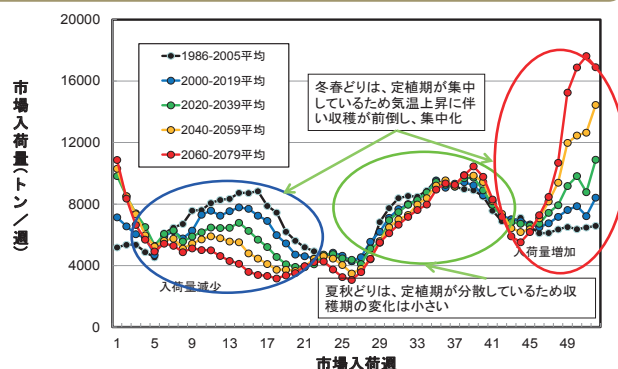
(独)農研機構 中央農業総合研究センター・野菜茶業研究所



現在の産地配置・作付時期のままだと、キャベツでは温暖化後に冬～春に大きく収穫時期・量が変動すること、冬～春の安定供給のため産地配置・作付時期の修正が必要なことを示しました。また、今後、より詳細に影響評価を行うため、キャベツ・レタスの月別品目別作付面積の推定手法を開発しています。

1 現行の産地配置・作期のまま温暖化すると・・・出荷時期のずれから産地・作期の再配置で対応すべき課題をあぶりだす
—主産県の県単位でのラフな推定—

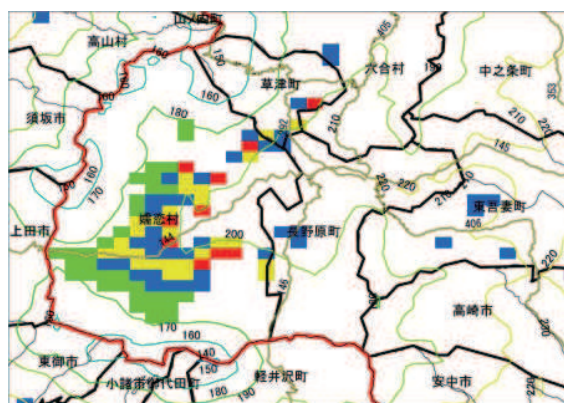
- 温暖化後でもキャベツ産地において作付時期を変えないと仮定すると、安定周年供給体制が崩れることを示しました。
- 夏秋どりでは収穫期の移動は大きくありませんが、冬春どりにおいて収穫期の前倒し・集中化することが分かります。
- この温暖化に伴い推定される収穫期の凸凹が、産地および作期の再配置による対応が必要なポイントと考えています。



夏秋どり、冬春どり生産上位7県を対象に、現在の定植パターンのまま温暖化した場合の収穫時期の変動推定

2 ラフな推定を詳細なものにするために、現在、どこでいつ何を作付けしているかを推定する

- 野菜にはどこで、いつ、何が、どれだけ作付けられているのかについてのデータがなく、このままでは詳細な温暖化影響評価が行えないので、
国土数値情報 土地利用3次メッシュデータ
(1km四方での年間野菜作付面積)
センサス集計結果
(旧市町村単位の年間品目別作付面積)
生産統計
(市町村単位の季節別品目別作付面積)
青果物市況情報
(県単位の日別品目別入荷量)
から、
【1km四方での月別品目別作付面積】を推定する手法を開発しています。
- このように推定されたキャベツ・レタスの作付状況を用いて、今後、温暖化した場合の出荷量変動の詳細な推定を進めていきます。



群馬県嬬恋村付近の月別キャベツ作付状況の推定値
7月どり(青)、8月どり(緑)、9月どり(黄)、10月どり(赤)